

## 平成21年度津山工業高等専門学校有識者懇話会記録

1 日 時 平成22年3月1日(月) 13時30分～15時30分

2 場 所 津山工業高等専門学校 会議室

### 3 出席者

#### 外部委員

岡山大学長	千葉 喬 三
美作大学長	富 樫 穎
津山市長	桑 山 博 之 (御欠席)
岡山県美作県民局長	吉 岡 政 昭
美作地区中学校長会会長	武 内 直 行
津山商工会議所会頭	浮 田 佐 平 (御欠席)
津山圏域工業会会長	豆 原 直 行
津山高専同窓会会長	末 澤 俊 一
人形峠環境技術センター所長	黒 沼 長 助

#### 学校関係者

校長	稲 葉 英 男
教務主事(副校長)	岡 田 正
学生主事(校長補佐)	杉 山 明
寮務主事(校長補佐)	吉 富 秀 樹
専攻科長(校長補佐)	福 田 昌 准
機械工学科長	佐 藤 紳 二
電気電子工学科長	植 月 唯 夫
電子制御工学科長	鳥 家 秀 昭
情報工学科長	河 合 雅 弘
一般科目(文科系)学科長	稲 田 知 己
一般科目(理科系)学科長	佐 藤 誠
地域共同テクノセンター長	伊 藤 國 雄
学術情報委員会委員長	田 邊 茂
外部評価点検委員会委員長	藪 木 登
事務部長	宮 地 弘
総務課長	田 川 隆
学生課長	藤 沢 博 伸
総務課課長補佐	藤 原 浩 一
学生課課長補佐	庄 司 知 広

学術・社会連携推進事務室長 山下 泰彦  
総務課総務係長 竹中正巳

#### 4 議事等

- 一 開会
- 二 校長挨拶
- 三 有識者懇話会委員及び津山高専出席者の紹介
- 四 日程説明
- 五 座長選出
- 六 津山工業高等専門学校の現状と課題説明
  - 津山工業高等専門学校の取り組みと成果（校長）
  - 技術者育成の基盤環境の整備（教務主事）
  - 学生指導の取り組み（学生主事）
  - 寄宿舍北辰寮について（寮務主事）
  - 専攻科の現状（専攻科長）
  - 地域共同テクノセンターの活動（地域共同テクノセンター）
- 七 質疑応答・意見交換
- 八 有識者懇話会委員による評価
- 九 座長挨拶
- 十 校長挨拶
- 十一 閉会

#### 5 質疑応答・意見交換等

##### 【質疑応答】

**Q 留学生について、中学校卒業同等資格で入学するのか、それとも編入で入学するのか、また、日本語はどう対応されているのか詳しく教えていただきたい。**

- A 1 本校の留学生は3年生に編入学します。高校でいえば3年生の段階になります。  
日本語教育については2種類あり、マレーシア政府派遣では、マレーシアで日本語教育を受け、試験に合格できないと留学できません。もう一つは、国費といい日本政府が実施する試験に合格すると、東京にある日本語教育センターで1年間教育を行っています。したがって、日常会話ができる状態になって編入しています。
- A 2 現状は政府派遣と国費留学生ですが、私費を受入したいと考えております。高専機構全体で試験をして私費を受入しようと考えています。この場合も3年生に編入学します。

**Q 寮の問題について、中学校卒業後、社会生活がわからない状態で入寮し、メンタル面のサポート等問題が多いというお話がありましたが、具体的に言うとうどういうよう**

**な問題で、それはどのように対応されているのか、また、アルバイトの規制についてお聞きしたい。**

A 1 メンタル面についてですが、今は発達障害又はアスペルガー症候群というような子が入学しております、そういう子の対応には非常に苦慮しています。コミュニケーションが成り立たないとか、寮の部屋に閉じこもってしまうなどの問題があり、我々としても注意しています。わかった時点でとにかく保護者を呼んで、保護者、治療主治医、看護師、スクールカウンセラーすべて総動員して対応に当たっております。

それからモラルについてですが、15歳から20歳位の子ですので、やはりタバコや飲酒に興味が行ってしまいますので、そういう学生については、もちろんわかった時点で指導します。寮では警告点といたしまして、指導に従わない場合には警告点を課すという一つの罰則があります。何回も何回も繰り返す学生は、その警告点を出して、最終的には寮を出ていってもらおうというところまでやります。

また、女子寮に関してですが、15歳から20歳ぐらいの女子が、30名ほど一緒に生活していますが、なかなか人間関係が難しいところがあり、これについては、女性教員がいますので、女性教員を中心に寮母さんも入って対応しています。

ひとつ言えることは、寮というのは生活の基盤ですので、学校の指導とも違うし、部活動の指導とも違います。部活動の場合、合わない人はやめる、それで済みますが、寮の場合は、寮に合わないから出ていきなさいと言うわけにはいきません。そのあたりの指導が難しい所です。

A 2 アルバイトについては、特に規制はしていません。原則として大学と同じ扱いですが、問題が多いのも事実です。特に1、2年生の夏休みにアルバイトにのめりこんでいる事例が過去ありました。1、2年生については、夏休み前に保護者会をして、そこで、学年主任からアルバイトすることは、禁止ではないが、十分注意をして下さいとお願いしていただく事になっておりますし、事前に担任とよく相談するようにお願いしております。相談の中で教育的、社会的に望ましくないものはもちろん排除していくことが出来る部分があると思います。その程度の規制しか出来ていませんので、今後の課題になると思っております。

**Q 進学と就職の割合はどのようになっているのか、もう一つはPRで小中学生を対象に色々イベント等やっていますが、小中学校へ出前講座する等どこまでやっているのかお聞きしたい。**

A 1 進学と就職の割合は、専攻科を含めて4割5分くらいが進学、残りが就職ということになります。今年は進学率は低くなっています。大学卒に比べて高専卒の方が就職は有利なので、それを見越しているようです。

求人倍率が30倍とかあるものですから、大学に行って就職活動に苦勞するよりも

高専で就職したほうが良いと思われます。

A 2 出前講座についてですが、本校学生が出かけて行くことが結構あります。先生方が行く出前講座のアシスタントとして参加します。今年度、特に大きいのは科学 T r y アングル岡山という津山高専、岡山大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学と一緒に科学大好き人間を作ろうというイベントがあり、学生も参加し指導しています。

**Q 専攻科への進学について、どうやって優秀な人を確保していくか、特別なことをやっていますか。**

A 最近では専攻科への進学が増えている傾向にあり、編入して大学に行くよりは、研究したければ専攻科から大学院へ行くという傾向にはあると思います。専攻科設置初期の頃は修了後の進路等が見えない状況もあり、専攻科への進学が少なく苦労しました。最近では J A B E E の認定を受け、修了すると技術士の 1 次試験が免除されます。社会的に会社の方もきちんとした教育をやっているということを認められ、専攻科の求人も増え、専攻科を受験する学生が増えているのが現状です。やはり、地元で同じ環境で学習できることや、授業料の問題がかなり大きいと思います。授業料は大学の半分くらいですから。

就職について、専攻科にとっては大学生との競争という状況にありますから、本科生の方が大企業に就職できる可能性が高いです。専攻科設置初期の頃は地元重視の希望者も多かったのですが、最近ではもう少し地元企業に就いてもらえないかと思います。我々も専攻科の魅力作り、先生方の魅力で専攻科に残るといふ子もいますし、色々な方策も立てておりますけれど、もう少しいい学生を企業に紹介したいなという段階になっております。

**Q 連携協定の説明がありましたが、連携の目的や具体的な内容について教えていただきたい。**

A 勝央町は大きな工業団地があり、20から30社弱くらいの一流企業があります。津山高専とのコネクションが弱いので、企業とダイレクトにやるにしても、自治体が入る方が色々な面で良いという事があります。勝央町の場合、モンゴルとの連携をやっており、津山高専へモンゴルから学生が訪問したり、モンゴルとの繋がりがあります。また、市町村と直接やっているほうがその中身の企業と結びつきやすいです。また、奈義町とも同様に連携して繋がりをつけるということが、高専の売りになります。先程話しましたように、機構本部から見れば地方とどれだけうまくやっているのか、いくら口で言っても駄目で、交流、補助金や様々な情報をもらえるうちにサポートを受ける。もちろんこちらから出すものが必要だと思いますが、連携というのは非常に大事なものと考え、今後、連携協定を増やしていこうと思います。

**Q 中学校長の立場から津山高専への意見をお聞かせいただきたいと思います。**

A 1 入試に関して、自己推薦とか併願をしていただき、ありがたかったです。受験しようという子も増え、今までは敬遠というか、難しく考える生徒が多かったものから、ありがたいなと思っています。先程のメンタルヘルスの件ですが、情緒障害の程度というのは、中学校も増えていまして、警察を含めた関係機関と話をしなければならぬような状態となっています。高専の年齢になると大変だろうと思います。今の中学校現場の話をしますと、岡山に唯一精神医療センターが一つありますが、ここの連携をとらなければ駄目になってきています。非常に学力が高い生徒がおり、アスペルガーの特徴が学力的にでてくる、ところが完全に人間関係は出来ない、一つのことに固執してくるので特に高専という特色からいうと受験しやすいという条件に入るのではないのでしょうか。一つだけお願いしたいのは、高専に入学した学生と5月までに、ざっくばらんに中学校と話ができ、また、こういう会ができれば、高専の先生方にとっても良いと思います。高校とはまだまだこういうことができていないです。中学校は逆に入試までにすれば良いとやりますが、実は岡山県内生徒指導で、中高連携している所はありません。なぜかと言いますと、入試に影響するのではないかというのが中学校の考え方だったり、高校の考え方です。逆にそうではなく、入学が決まってからでいいですから、年度を越えて4月、5月の間に早急に学生とのコンタクトをとり、ざっくばらんに話をしたいと思っています。

A 2 津山高専としてはできるだけ良い学生さんが集まるように中学校側から安心して送っていただける環境を作りたいと思います。それからメンタルヘルスの件については、我々だけでは到底出来ません。先程言われましたように本当は小学校あたりがいいんですけども、保護者を含めて非常に苦労しているので、そのあたりについてもぜひ聞かせて欲しいと思います。

**【意見交換】**

● 大学のほうは全入時代を迎えており、高専のほうはどのような状況なのかわりませんが、岡山大学の場合は厳正な選抜をして学生が入学してくる。だが、多くの私立大学は、そんなことを言っていたら経営が成り立たないというような状況にもう既になりつつあります。各大学とも入学してくる学生に対する初年次教育をかなりの大学が数年前から初めており、私共の美作大学でも同様に一年セミナーという言い方で新入生に対する教育を行っています。それは、1クラス10人程度の少人数教育で、定員は短大含めて350名くらいだったと思いますから、35クラス、35人の担任が1年間張り付きます。中身としましては、高等学校と大学との違いがわかっていないといけない。まずはキャンパスになれるとか、当然大学生になるということで社会人の

卵ですから、色々な意味で身を守らなければいけない、例えば薬の問題があったり、悪徳商法で騙されたりとか、また、インターネットに手を突っ込んで犯罪に巻き込まれたり、様々な問題が現代にはありますから、そういう事柄は全体授業、クラス合同の授業でやるわけです。とにかくキャンパスに慣れるとか、キャリア教育、これから大学を出て或いは短大を出てどんな仕事をしていくのか、という目標を持たせる。そのための教育だったり、それから、ノートの取り方とかレポートの書き方とか、今の時代はメールで改行をしない癖が結構ついていますので、日本語から学び直す、こういうことを含めて1年間、1人の担任が10人の学生に対して付き合う、この中で悩みとかが当然発生します。先程の発達障害とか情緒障害の問題も出てきますし、進路について悩み、入学したけれども退学してしまうとか、そういう学生も少なからず居るわけです。でもそういう事をしないといけないような時代になってしまったと感じています。中学から高専へは、大学とは違った対応が必要じゃないかと思います。先程中学校側も考えないといけない、高専側も考えないといけないというお話がありましたが、両者が情報を共有し合い、場合によっては個別対応もあり得るでしょうし、1年セミナーというような事も検討される必要があるのかも知れませんが、正直申上げて、小学校から大学まで含めて非常に大変ですネと言うのが私の実感です。

- 私共大学で言うと中学校あたりでやってきて欲しいと思います。ただ社会に出るのは私達だと思っていますからしなければならぬ、そうすると高等教育といいながら実はレベルを下げていかないと高等教育の中身が薄くなっていく、これは日本国全体の弊害だと思います。どこかで考えていかないといけない、やはり高専は難しいなと思ったのは、いちばん難しい年頃の子を長期間預かることです。逆に言えばこの期間に大部分の人間が形成され、それをずっとかかえて大変だなと実は感心して聞いていました。ぜひ頑張ってください、例えば高専が見本を見せるというか、こういうことをすれば今抱えている問題なんか実は解決できることがあるのではというヒントになればありがたいなと思っています。

## 6 挨拶

### 【座長】

沢山のご意見いただきましたが、これで懇話会を終わりにしたいと思います。津山高専が非常に発展しておられますので、岡山の大学とも今後とも外の大学とも連携していただくことをお願いしまして、本日もご出席の方々のこういう会を含めてお付き合いをいただいで何かと相談することがあったらするという形で益々津山高専の発展にできることをさせていただきますと思います。

### 【校長】

本日は長い時間、津山高専の為に助言、ご指導ありがとうございました。最後に、皆さまから言われたことをしっかり対応できる様に努力したいと思います。もう一つ、最後

座長が言われましたように、学生含めて人数をあわせれば身のあるものが出来るんではないかと考えます。色々ご助言、ご指導を今後ともよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。